

# [特集展示小冊子] ピカソとミロの版画 教育普及企 画

著者	江藤 祐子
発行年	2022-04-29
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1771/00000206/">http://id.nii.ac.jp/1771/00000206/</a>

Special Section

*Learning: Prints by*

# Picasso *and* Miró

特集コーナー展示

ピカソとミロの版画 —教育普及企画—



**ARTIZON  
MUSEUM**

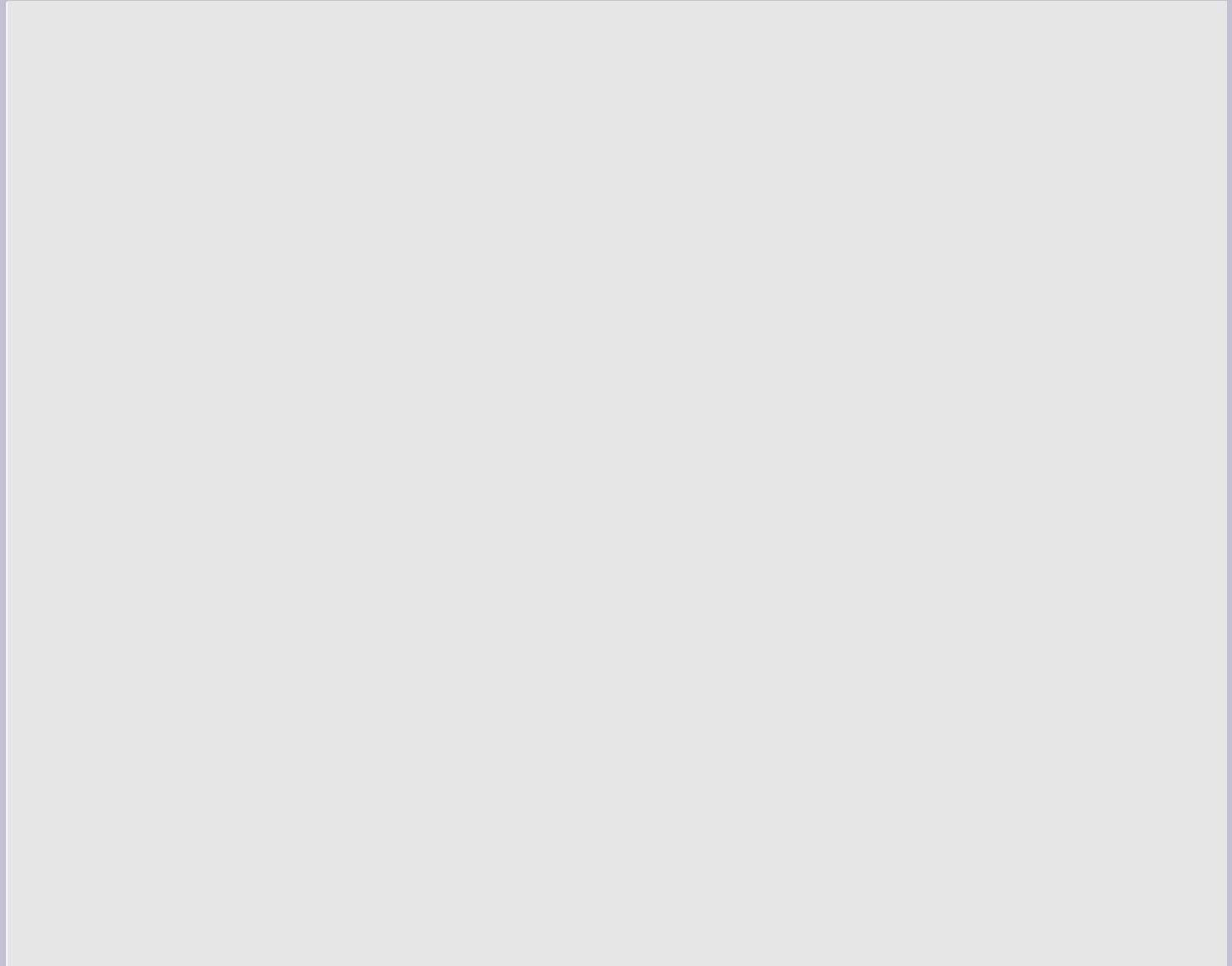
## ピカソとミロの版画

石橋財団コレクションより、いずれも20世紀スペインを代表する芸術家であり、交友関係にもあったパブロ・ピカソ(1881-1973)とジョアン・ミロ(1893-1983)の版画作品をご紹介します。

スペインのマラガに生まれ、主にフランスで制作活動を行ったピカソと、バルセロナ出身のミロが最初に対面したのは1920年春、初めてパリを訪れたミロが、パリのピカソのアトリエを訪ねたときでした。同胞の二人は親しくなり、その交流は生涯続きました。

ひとまわり歳の離れているピカソとミロですが、かつてバルセロナのラ・リョッジャ美術学校に通っていた同窓にあたります。また、1918年にミロが同年代の友人たちと結成した、前衛芸術を志す集団「クールベ・グループ」のグループ展に、バルセロナの旧市街に住むピカソの母親から借り受けた、ピカソの初期作品も出品されたという繋がりもありました。

ピカソとミロの大きな共通点は、その表現活動の幅広さにあります。絵画をはじめ、彫刻、陶器など、生涯にわたってあらゆる創作の手段に取り組んだ二人は、版画作品においても、様々なモチーフや色彩、そして技法を用いて、自らの表現を追求しました。作品に加え、技法の解説や道具の展示を通して、ピカソとミロの多彩な版画作品の魅力をお楽しみください。



パブロ・ピカソ《四人の子どもに見られる羽のはえた牛(『ヴォラーレのための連作』より)》1934年、エッチング  
Pablo PICASSO, *Winged Bull Watched by Four Children*, from Volland Suite, 1934, Etching

## ピカソの版画

ピカソは、生涯にわたり膨大な数の作品を制作し、時代によって変化していく表現をその特徴としました。その豊かな才能は版画制作においても発揮されます。70年以上に及ぶ創作活動において制作された版画作品は、2,900点にもものぼるとされ、銅版画、リトグラフ、リノリウムカット、木版画など、その技法や素材も多岐にわたります。スピード感と正確さ、細やかさと共存する線描に、ピカソの技術の高さを見て取ることができます。

### パブロ・ピカソ 『ヴォラールのための連作』

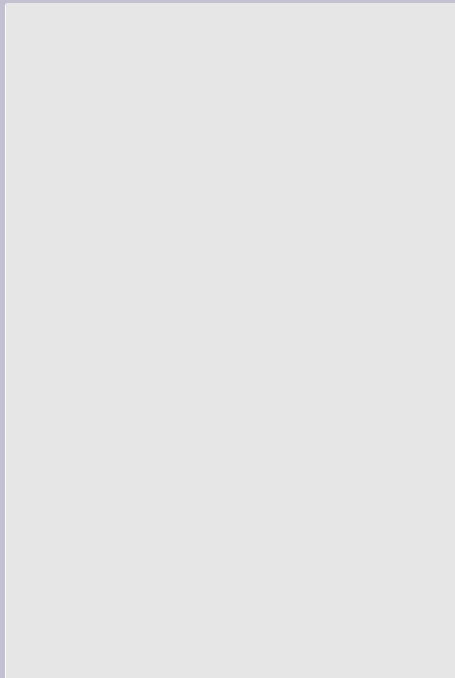
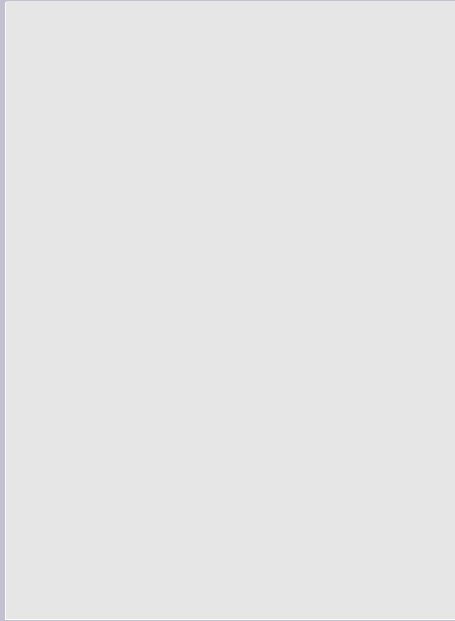
ピカソの代表的な版画集。ピカソの初の個展を1901年に開いた画商アンブローズ・ヴォラール（1866-1939）が、1930年から1937年にかけてピカソが制作した100点の銅版を買い取り、刷り師ロジェ・ラクリエール（1892-1906）に刷らせたもので、エッチング、ドライポイント、アクアチントなど、複数の技法が用いられています。石橋財団コレクションには、そのうち46点が収蔵されています。

パブロ・ピカソ 《頭部像を見る二人の女（『ヴォラールのための連作』より）》  
1933年、エッチング

Pablo PICASSO, *Two Women Looking at a Sculpted Head*, from Volland Suite, 1933, Etching

パブロ・ピカソ 《三人の役者（『ヴォラールのための連作』より）》1933年  
ドライポイント

Pablo PICASSO, *Three Actors*, from Volland Suite, 1933, Drypoint



パブロ・ピカソ 《『カルメン』（プロスペル・メリメ著）のための挿絵》1949年刊 エングレーヴィング  
Pablo PICASSO, *Illustration for "Carmen"*, (Text by Prosper Mérimée), Published in 1949, Engraving

プロスペル・メリメ（1803-1870）の小説『カルメン』に寄せた挿絵。エングレーヴィングによるシンプル且つ繊細な線で、個性豊かな顔を様々に描き出しています。

## ミロの版画

ミロは、キュビズムやダダの影響を受けながらシュルレアリスム運動に参加し、絵画で様々な手法を試みます。中でも35歳のときに本格的に版画を手掛けて以降、版画技法の実験と探求を続け、2,000点を超える版画作品を発表しました。1946年、ニューヨークで有名な版画家スタンリー・ウィリアム・ヘイター（1901-1988）の工房に出入りし、銅版画の知識を深めます。広く人々に作品を届けることができる版画という表現方法をミロは好みました。

アクアチント→

10ページ参照

### 複数の技法が用いられているミロの版画作品

ジョアン・ミロ《迷宮の星》1967年  
エッチング、ドライポイント、アクアチント、カーボランダム

Joan MIRÓ, *The Star of the Labyrinth*, 1967  
Etching, drypoint, aquatint and carborundum

#### ■ カーボランダム

#### 技法

原版を彫らず、版に特殊な混合物を塗って起伏を作り、その凹凸部分に乗せたインクをプレスして用紙に刷る技法で、立体感が特徴です。

アクアチント→

10ページ参照

ドライポイント→

8ページ参照

カーボランダム→

←カーボランダム

←カーボランダム

← エッチング

9ページ参照

←アクアチント

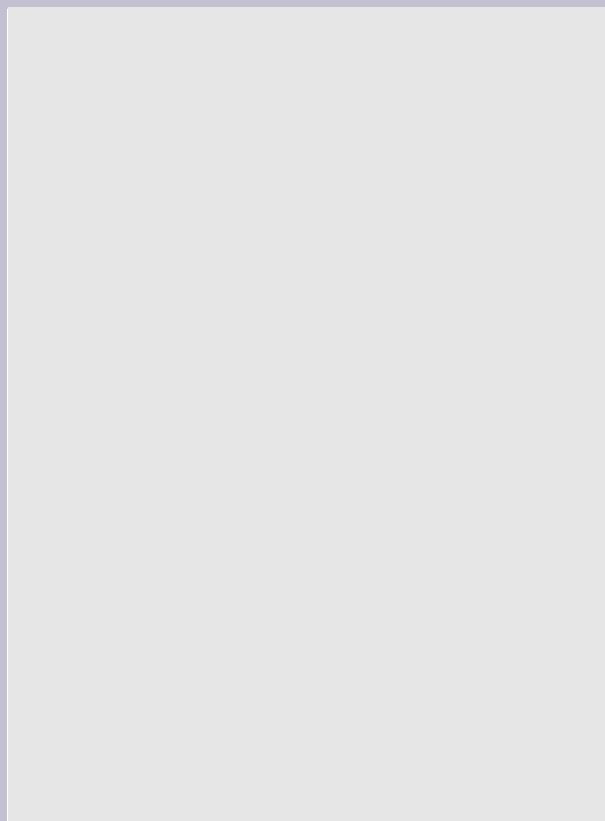
←アクアチント

←ドライポイント

## ■ エングレーヴィング

## 技法

凹版である銅版画の技法として最も古いもので、15世紀半ば頃にドイツで生まれました。ビュランという菱形の断面を持つ彫刻刀による鋭い線刻が特徴です。ビュランは刃を動かす方向が一定方向に限られ、線の密度によって調子の濃淡を微細に表現するために、熟練した技術を必要とします。曲線を彫る場合には、進行方向に版を回して彫ります。



パブロ・ピカソ 《『カルメン』(プロスペル・メリメ著)のための挿絵》1949年刊、エングレーヴィング  
Pablo PICASSO, *Illustration for "Carmen"*, (Text by Prosper Mérimée), Published in 1949, Engraving



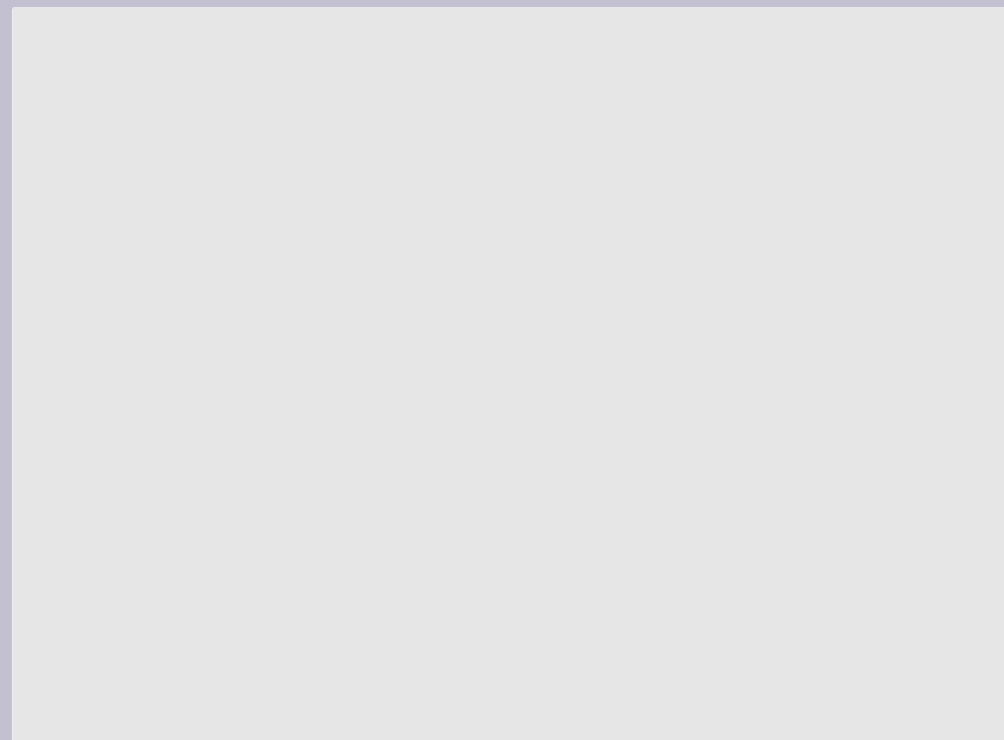
ビュラン



## ■ ドライポイント

## 技法

ニードルで銅版を直接引っかくようにして描画するシンプルな技法で、1480年頃のドイツでつくられた作品が最古のものとされています。ビュランと異なり、ニードルは動かす方向に制限がなく、エングレーヴィングに比べて温かみのある自由な線を得ることができます。彫った線の両側にできる銅の「まくれ」についたインクが独特のにじみを作り、削りの加減で線の太さを変えることも可能です。



パブロ・ピカソ 《サーカス (『ヴォラールのための連作』より)》1933年、ドライポイント  
Pablo PICASSO, *The Circus*, from *Vollard Suite*, 1933, Drypoint

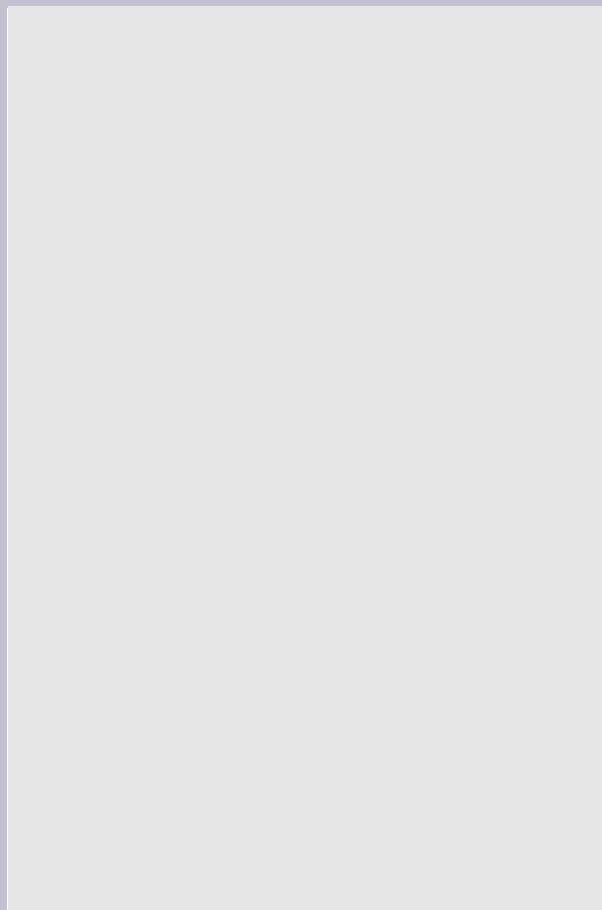


ドライポイントの描画で主に使用されるニードル

## ■ エッチング

## 技法

グランドという防蝕剤を塗った銅版にニードルで描画し、酸で腐蝕させて版を作る方法です。酸の溶液にひたすと、描画してグランドがはがれ銅が露出した部分のみが腐蝕し、線状のくぼみができます。銅板に彫刻せず、グランドを削り取るだけでよいので、素描に近い自由な軌跡の線が得られます。腐蝕時間を調整して線の強弱を表現することができ、他の技法とも併用しやすい技法です。エッチングによる銅版画は、17世紀のヨーロッパで隆盛を極めました。



ジョアン・ミロ《「黒と赤」シリーズより》1938年、エッチング  
Joan MIRÓ, *From Black and Red Series*, 1938, Etching



主にエッチングの描画で使用されるニードル



グランド

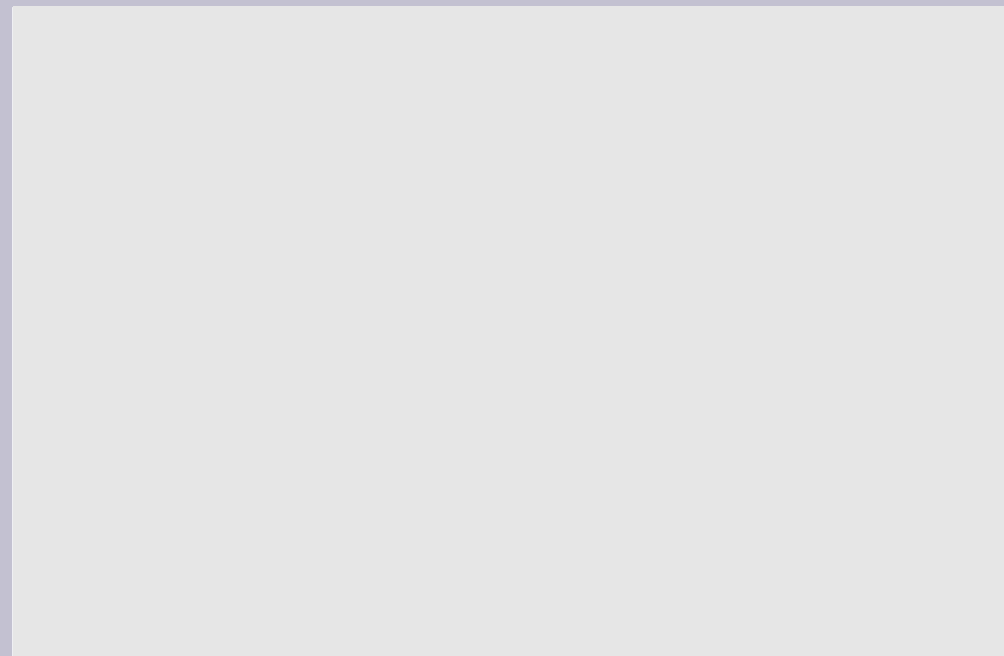
## ■ アクアチント

## 技法

銅板上に細かい点状の凹版を作り、面に濃淡を表現するときに使われる技法で、18世紀後半にフランスで確立しました。版面に松脂の粉末を散布し、熱して定着させてから酸の溶液にひたすと、松脂のついていない部分のみが腐蝕し、無数の点状の凹部ができます。段階的に腐蝕し、版の深さの差をつくることで、グラデーションの表現が可能になります。水彩画に似た仕上がりになるため、「アクア（水）チント（色合い）」と呼ばれます。エッチングなど、他の技法と併用されることが多い技法です。



松脂



ジョアン・ミロ《犬IV》1978-79年、アクアチント  
Joan MIRÓ, *The Dogs IV*, 1978-79, Aquatint

## ■ リトグラフ (石版画)

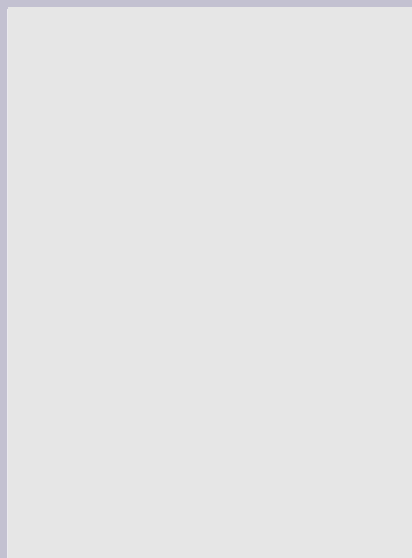
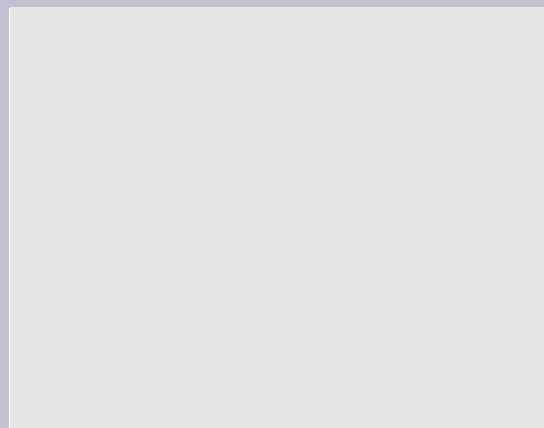
## 技法

平らな版にインクを載せて刷る「平版」です。18世紀末にドイツで発明された方法で、19世紀にヨーロッパを中心に人気を博しました。水と油の反発を利用してイメージを印刷します。石版の版面に直接描いた絵を、ほぼそのまま紙に刷り取れるのが特徴です。多色リトグラフは、色の数と同じ数の石版を用いてつくられません。リトグラフの「リト」は、ギリシア語で石を意味する lithos に由来しています。

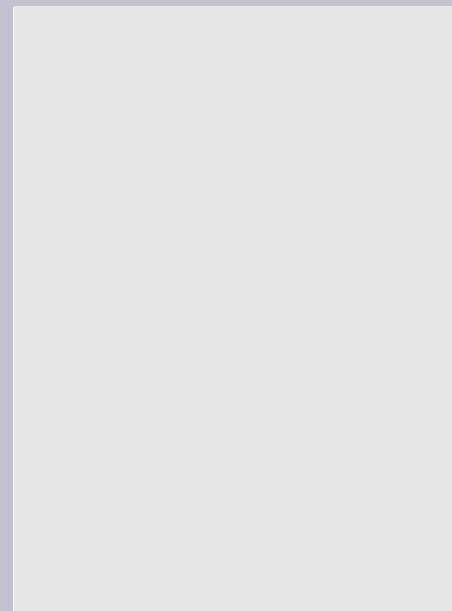
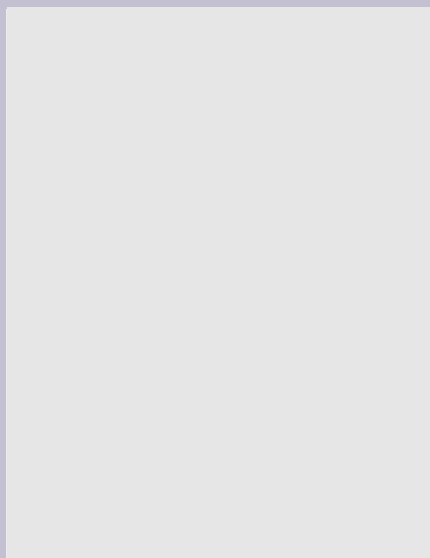


石版

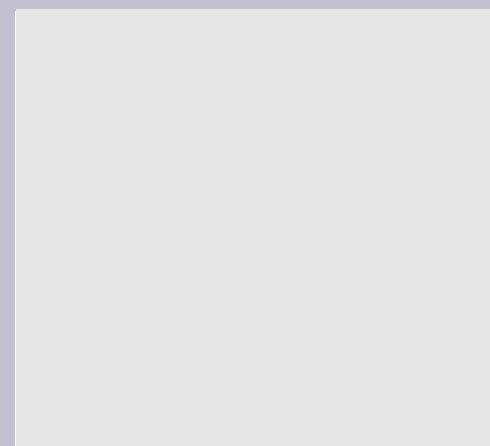
パブロ・ピカソ《バッカス祭II》1959年、リトグラフ  
Pablo PICASSO, *Bacchanal II*, 1959, Lithograph



パブロ・ピカソ《『詩とリトグラフ』》1954年刊、リトグラフ  
Pablo PICASSO, *Poems and Lithographs*, Published in 1954, Lithograph



ジョアン・ミロ《猫》1970年、リトグラフ  
Joan MIRÓ, *Cat*, 1970, Lithograph

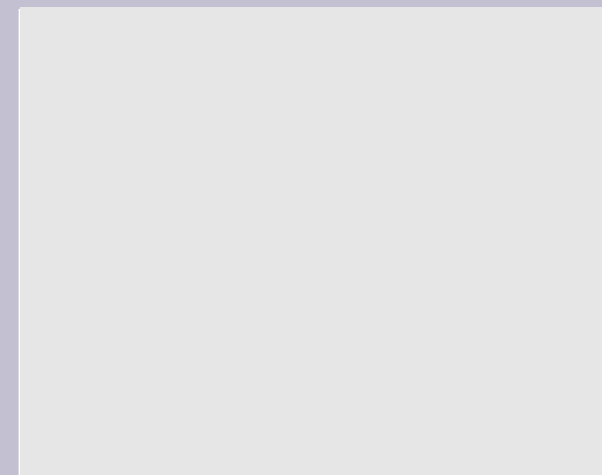


ジョアン・ミロ《記号と流星》1958年、リトグラフ  
Joan MIRÓ, *Signs and Meteor*, 1958, Lithograph

## ■ シルクスクリーン

## 技法

孔(あな)があいている版を用いて行う、孔版印刷の一種です。シルクスクリーンの歴史は120年ほどで、比較的新しい技法ですが、型紙と絹の紗(しゃ)による日本の印刷技術がヒントになったとされています。メッシュ状の版を、絵柄を残して目止めし、絵柄となる孔の部分を通してインクが刷られます。かつて版に絹が使用されていたことから、「シルク」スクリーンと呼ばれます。現在ではさまざまな材質のメッシュが使われています。



パブロ・ピカソ《コンポジション》シルクスクリーン  
Pablo PICASSO, *Composition*, Silkscreen



# Learning: Prints by Picasso and Miró

Pablo Picasso (1881-1973) and Joan Miró (1893-1983) are the two of the most renowned twentieth-century artists from Spain—and they were also friends. This exhibition displays prints by both artists from the Ishibashi Foundation Collection.

Picasso was born in Málaga in Spain and created most of his art in France. Miró was born in Barcelona. The two met for the first time in the spring of 1920, when Miró, on his first visit to Paris, called on Picasso at his atelier. The two compatriots became lifelong friends.

While a dozen years apart in age, Picasso and Miró had both studied at the La Llotja Fine Art Academy in Barcelona. Also, in 1918, when the Agrupacio Courbet, an avant-garde group formed by Miró and friends of about the same age held an exhibition, an early work by Picasso was lent to them by Picasso's mother, who lived in the Old Town district of Barcelona.

A major similarity between Picasso and Miró was the breadth of their creative activities. Both experimented with all sorts of techniques throughout their lives, not only paintings but also sculptures, ceramics, and prints. In their prints, we see that, in developing their own styles, both used a wide variety of motifs, colors, and techniques. This exhibition thus includes tools and explanations of print techniques in addition to Picasso's and Miró's multifaceted prints, to present their fascination.

## 謝辞

本展の開催にあたり、版画技法の監修で多大なご協力を賜りました関淳一氏に、厚く御礼申し上げます。また、版画の道具類をご貸与いただきました横浜美術館 市民のアトリエ、ならびにご協力いただきました桜庭瑠実氏に、深く御礼申し上げます。さらに、お力添えをいただきました上村牧子氏、藤村拓也氏、アンドリュー・ニューマン氏に、心より御礼申し上げます。

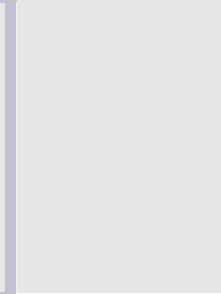
## Acknowledgement

We would like to express our sincere gratitude to Mr. Junichi Seki for greatly helping us in supervising print techniques. We would also like to express our sincere appreciation to the Citizen's Workshop, Yokohama Museum of Art for lending us printing tools and samples and to Ms. Rumi Sakuraba for her kind cooperation. Additionally, our heartfelt thanks go to Ms. Makiko Kamimura, Mr. Takuya Fujimura and Mr. Andrew Neuman for their kind support.

## Cover Works



ジョアン・ミロ  
《人と鳥》1948年、リトグラフ  
Joan MIRÓ, *Figure and Bird*  
1948, Lithograph



パブロ・ピカソ  
《『カルメン』(プロスペル・メリメ著)の  
ための挿絵》1949年刊  
エングレーヴィング  
Pablo PICASSO,  
*Illustration for "Carmen"*  
(Text by Prosper Mérimée)  
Published in 1949, Engraving

ジョアン・ミロ  
《犬 IV》1978-79年、アクアチント  
Joan MIRÓ,  
*The Dogs IV*, 1978-79, Aquatint

石橋財団コレクション  
特集コーナー展示  
ピカソとミロの版画—教育普及企画—

2022年4月29日(金・祝)ー7月10日(日)  
アーティゾン美術館

企画・執筆：江藤 祐子

デザイン：田畑 多嘉司  
秋本 真奈帆

版画技法監修：関 淳一 (版画家)

翻訳：ルシー・S. マクレリー

印刷：株式会社 野毛印刷社

発行・著作：  
公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館  
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Selections from the Ishibashi Foundation Collection  
Special Section

Learning: Prints by Picasso and Miró

29 April (Fri)–10 July (Sun), 2022  
Artizon Museum

Curation and Texts: ETO Yuko

Design: TABATA Takashi  
AKIMOTO Manaho

Print Technique Supervisor: SEKI Junichi (Print Artist)

Translation: Ruth S. McCreery

Printed by Noge Printing Corp.

Published by  
Artizon Museum, Ishibashi Foundation  
1-7-2, Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan  
www.artizon.museum

